

- (32) 1976年に県文化課で調査された。
- (33) 出口浩「吉野町七社遺跡」『鹿児島考古』第8号 1973年
- (34) 平田信芳他『萩原遺跡(2)』始良町教育委員会 1980年
- (35) 河川・小田他『薩摩国府跡・薩摩国分寺跡』鹿児島県教育委員会 1975年
- (36) 立神次郎・中村耕治「鹿児島県串良町上小原古墳群内出土の古式須恵器」『古文化談叢』第5集 1978年
- (37) 1978年に県文化課で調査された。
- (38) 宮田道照「宮内遺跡」『ふきあげ』第7号 1969年
- (39) 註(10)の報告書
- (40) 池水寛治「鹿児島県長島町小浜崎古墳群(Ⅱ)」『鹿児島考古』第6号 1972年
- (41) 河川貞徳・上村俊雄他「入来遺跡調査概要 — 支石墓研究の一環として」『鹿児島考古』第11号 1976年
- (42) 辻正徳「先史時代」『吹上町郷土史』上巻 1969年
- (43) 註(40)と同じ
- (44) 上村俊雄「先史時代」『志布志町誌』上巻 1972年
- (45) 口縁直径1に対して、内面の高さ0.5以下を浅い、それ以上を深いとする。
- (46) 吉永正史「入道遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』00 1978年
- (47) 坂詰秀一編『筑前平田麻跡』 1974年
- (48) 小田富士雄『天観寺山麻跡群』 1977年
- (49) 石隈喜佐雄・七田忠昭編『二塚山』(『佐賀県文化財調査報告書』第46集) 1979年
- (50) 中村明蔵「古代における鹿児島湾沿岸部勢力について — 成川遺跡の存在をめぐって」『隼人文化』第6号 1979年
- 以上の他に次のような文献を参考にした。
- 柳瀬・江見・中野『川入・上東』(『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』16) 1977年
- 羽田野光洋「東九州における弥生式土器研究 I — 安国寺式土器の再検討」『古文化談叢』第5集 1978年

表紙土器解説

河 川 貞 徳

鎌辺町石峰遺跡出土の平格式土器。縄文時代前期前半に位置するもので、国分市平埴貝塚出土の土器を標式として名づけられた。早期に発生した幾何学文と、縄文が併用して施文され、前期初頭の手向山式に続き、この地方における前期の特徴である、各系統の土器型式の融合現象が顕著で、更にこの特徴は、後続する塞ノ神A式に引きつがれている。

口径21cm、高さ22cm、底径10cmで小型であるが、形がよく整い、文様も美しく、平格式土器中の逸品である。伴出の炭素測定による年代は、7910±115 Y・B・Pである。